

平成 30 年度第 1 回小牧市予防接種協議会 議事録

【日時】平成 30 年 8 月 29 日（水）14 時 00 分から 15 時 25 分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】委員 5 名

林芳樹、新原光喜、田中秀典、木村隆、廣畑英治（敬略称）

事務局 5 名

伊藤健康福祉部次長、西島保健センター所長、野口補佐、余語予防係長、吉村主査

欠席委員 1 名 谷口健次、（敬称略）

【次第】

1 開会

あいさつ

2 議題

（1）平成 29 年度予防接種事業実績について

（2）平成 30 年度予防接種事業について

（3）BCG 個別接種について

（4）ロタウイルスワクチンの費用助成について

（5）小牧市民病院の個別接種業務について

3 その他

4 閉会

【議事】

司会

本日は、ご多忙の中ご出席を賜りましてありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから小牧市予防接種協議会を開催させていただきます。私は、本日司会を務めさせていただきます保健センター所長の西島と申します。どうぞよろしく申し上げます。まずは、資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただきました次第を一番上にしました資料が 1 部、本日机上に配布さ

せていただきました委員名簿が1枚、席次表が1枚、当協議会の要綱が1枚、すくすくこまキッズと書かれたカラー刷りのものが1部になります。以上となりますが、不足等ございませんでしょうか。

改めまして委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、協議会委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。皆様の任期は、本年7月1日から2020年6月30日までの2年間となっております。委嘱状につきましては、本来ならお一人ずつ交付をさせていただくところでございますが、机上に配布させていただいております。交付にかえさせていただきますのでよろしく願いいたします。

本日の委員の出席状況ですが、所用により欠席の連絡をいただいております小牧市民病院長の谷口委員でございます。田中委員につきましては、遅れてお見えになる予定ですので、よろしく願います。この会議につきましては、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、本庁にあります情報公開コーナー及びホームページにおきまして公開させていただきますのでよろしく願います。現在のところ傍聴希望者はありません。

会の開催にあたりまして、小牧市健康福祉部次長伊藤よりごあいさつをさせていただきます。

伊藤次長

健康福祉部の次長伊藤です、よろしく願います。委員の皆様、本日はお忙しい中、予防接種協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

予防接種は、種類が多く、種類により接種間隔、接種回数、接種年齢などが違い非常に複雑であります。実際に接種を実施していただいております先生方には、大きな混乱もなく実施いただき、感謝申し上げます。後ほど、報告させていただきますが、9月から予防接種のスケジュール管理ができるアプリを導入し、先生方や保護者の方の負担の軽減を図りたいと考えているところであります。今後も予防接種間違いのないように対策を強化するとともに、接種率の向上に努め、市民の健康づくりに取り組んでまいりますので、委員

の皆様方の一層のお力添え、ご助言をお願いし、開会のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

司会

それでは、本日が第1回目の予防接種協議会となりますので、委員の皆様を紹介に移りたいと思いますが、委員の皆様、継続でお願いすることになりましたので、席次表でご確認いただくようお願いしたいと思います。

続きまして、会長の選出に入らせていただきたいと思います。

小牧市予防接種協議会設置要綱第4条第1項により、会長は委員の互選により定めるとされています。皆様、推薦等いかがでしょうか。

新原委員

林委員を推薦させていただきます。

事務局

ありがとうございます。ただいま医師会の林委員を会長にとの声がありました。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

委員の皆様の賛同により会長は、医師会の林委員と決定させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、要綱第4条第3項の定めにより、会長の職務を代理する委員を会長より、ご指名をいただきますようお願いいたします。

林会長

それでは、新原委員をお願いしたいと思います。

事務局

ただいま会長より新原委員との指名がありましたので、新原委員よろしくお願いいたします。

それでは、会長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

林会長

選出していただきました、林と申します。はやしこどもクリニックの院長をしています。これからの2年間、予防接種協議会の会長をやらせていただきますので、皆様よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。

これより議事に入りますが、会長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

林会長

それでは、議題に入りたいと思います。議題(1)(2)「平成29年度予防接種事業実績について」「平成30年度予防接種事業について」事務局より説明申し上げます。

事務局

それでは、「平成29年度予防接種事業実績について」から説明させていただきます。資料の1ページをご覧ください。定期予防接種の実施状況です。

ヒブワクチンの初回接種完了ですが、対象者1,200名、接種者1,193名、接種率99.4%、追加接種完了は、対象者1,320名、接種者1,213名、接種率91.9%でした。

小児用肺炎球菌の初回接種完了は、対象者1,205名、接種者1,201名、接種率99.7%、追加接種完了は、対象者1,323名、接種者1,213名、接種率91.7%でした。

4種混合の初回接種完了は、対象者1,241名、接種者1,221名、接種率98.4%、追加接種完了は、対象者1,452名、接種者1,163名、接種率80.1%でした。

ポリオについては、1回目7名、2回目7名、3回目9名、追加

37名でした。4種混合での接種が主であるため、接種者は少なかったです。

2種混合については、対象者 1,567名、接種者 1,142名、接種率 72.9%でした。

麻しん風しん混合については、第1期対象者 1,227名、接種者 1,174名、接種率 95.7%、第2期対象者 1,417名、接種者 1,302名、接種率 91.9%でした。

続きまして資料の2ページです。水痘については、1回目対象者 1,219名、接種者 1,195名、接種率 98.0%、2回目対象者 1,333名、接種者 1,083名、接種率 81.2%でした。

日本脳炎については、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方も対象に含みます。第1期初回完了は、対象者 1,742名、接種者 1,485名、接種率 85.2%、第1期追加完了は、対象者 2,070名、接種者 1,456名、接種率 70.3%、第2期対象者 2,367名、接種者 1,594名、接種率 67.3%でした。

子宮頸がん予防ワクチンは平成25年6月14日から現在も接種勧奨の差し控え中であり、予診票は定期的に発送はしていません。希望者のみ発送しています。接種者は1回目4名、2回目5名、追加1名の計10名でした。

B型肝炎については、平成28年10月1日から定期接種に加わり、1年以上がたちました。1回目対象者 1,200名、接種者 1,195名、接種率 99.6%、2回目対象者 1,200名、接種者 1,166名、接種率 97.2%、3回目対象者 1,200名、接種者 1,185名、接種率 98.8%でした。

B C G接種については、対象者 1,189名、接種者 1,174名、接種率 98.7%でした。接種者の中には長期療養で1歳を過ぎたお子さんを1名含んでいます。コッホ現象事例報告書の提出が7件あり、いずれも接種時期は標準である生後5か月から生後8か月に接種されたお子さんでした。ツベルクリン反応検査は、全件行ない6件が陰性、1件が陽性でした。陽性であった1件の方は胸部レントゲンも実施しましたが、レントゲン上は異常ありませんでした。結果については判定保留で、小牧市民病院へ紹介になっています。

インフルエンザについては、65歳以上の対象者 36,239名、接種

者 17,331 名、接種率 47.8% でした。ワクチンの供給不足が全国的に起こり、接種期間を例年の 12 月末日までから 1 月末日まで 1 か月延長しました。結果、延長はしましたが接種者数としては減少しています。

高齢者肺炎球菌ワクチンについては、対象者 6,279 名、接種者 3,127 名、接種率 49.8% でした。

続きまして資料の 3 ページです。接種者のうち再掲になりますが、愛知県広域接種事業で市外で接種された方、指定医療機関外の補助事業で県外で接種された方の人数を表にまとめましたので、参考にさせていただけたらと思います。

MR の定期外予防接種についてですが、手続きをされ接種された方が、2 歳以上年中児までの方が 30 名、第 2 期を接種出来なくて小学校入学後から 7 歳半未満までの方が 18 名でした。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種費用助成事業として、252 名の方に上限 5,000 円の助成を行いました。

おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業として、1 歳以上就学前までのお子さんが対象で 1,266 名の方に助成を行ないました。

風しんワクチン予防接種費用助成事業として、抗体検査の結果ワクチン接種が必要と判断された方で、女性が 172 名、男性が 6 名に対し助成を行ないました。

予防接種事故についてですが、接種間隔不足で 7 件の報告とワクチンの期限切れ接種で 4 件の報告がありました。平成 30 年度は、これまでに 3 件の接種間隔不足の報告をいただいています。

続きまして、資料 4 ページ「平成 30 年度予防接種事業について」ですが、平成 29 年度と変更点はなく、定期外予防接種、助成事業等実施していきます。助成事業の中で高齢者肺炎球菌につきましては、平成 26 年から 65 歳の方が定期接種になり、今年度までは経過措置で 5 歳刻みの方も定期接種対象で実施しています。平成 30 年度までに 70 歳以上の方が 1 回以上対象になっており、平成 21 年から実施している助成事業も今年度で終了の予定です。終了に際しての周知としては、70 歳以上の未接種者の方に 7 月から 8 月にかけて、案内文を個人宛に送付しました。ホームページには掲載してお

り、広報こまきには、10月1日号と1月15日号でも案内を掲載する予定です。

平成30年2月1日から予防接種再接種費用助成事業を開始しました。骨髄移植手術その他の特別な理由により、接種済みの定期予防接種の予防効果が期待できないと主治医に判断され、任意で予防接種を再接種する市民の方に対し、再接種費用の助成をします。現在のところ3名の方の申請があり接種をしてもらっています。

予防接種スケジュールアプリ「すくすくこまキッズ」を9月1日から導入を開始します。本日机上に配布させていただいています、資料カラー刷りのものがアプリの概要になります。起動時の画面、3枚目にアプリのイメージ像が書いてありますが、予防接種スケジュール、予防接種をいつ接種するかが一目でわかるカレンダー、ホーム画面では、予防接種実施している医療機関、妊娠・出産・産後ケアについて、地域での子育て事業に関すること、成長記録もできるアプリになっています。このアプリは、子育て世代包括支援センターのオープンに合わせて周知し、市民の方に広く利用していただきたいと思います。予防接種のスケジュールを自動で作成するアプリのため、接種間隔等の接種間違いを防ぐ効果が期待できるかと思っています。議題1と2については、以上になります。

林会長

ありがとうございました。只今の報告に対してご質問、ご意見ありましたらお願いします。接種率はかなり上がっています。100%に近い予防接種の種類もあります。しかし、2種混合が少し下がっていますが、何か理由がありますか。

事務局

2種混合については、昨年と同じように12歳の誕生月に未接種者に対して勧奨の通知を継続して出していますが、平成29年度は平成28年度に比べて減ってしまいました。特に理由はないと思います。

林会長

引き続き勸奨をお願いします。何かご意見ありますでしょうか。

予防接種事故については何かありますでしょうか。BCGのコッホ現象の報告は医院からの報告ですか。

事務局

はい、医院から報告書を提出していただいておりますので、その件数になります。

林会長

市民病院に紹介した1件のその後の詳しい内容は把握していますか。

事務局

こちらでは、把握はしていません。紹介されたままでです。

林会長

その他ご意見がなければ次の議題にいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、次の議題3に入らせていただきます。「BCG個別接種について」という議題です。事務局より説明をお願いします。

事務局

議題3 BCG個別接種について説明します。資料の6ページをご覧ください。

現在小牧市では、月に3回保健センターにおいて集団接種で実施しています。定期接種については、予防接種法により医療機関で行なう個別接種を原則としております。予防接種の実施に適した施設において集団を対象に行なう集団接種でも差し支えないとされており、小牧市では現在集団接種を実施しております。平成30年5月回答の県の調査では、県内54市町村中、個別接種実施は27市町村、集団と個別を併用しているところが6市町村、集団接種で実施

しているのが 21 市町村になります。

また、他市からの県広域予防接種で B C G 可能な医療機関は小牧市内 82 医療期間中 13 医療機関です。近隣の状況は表のとおりですが、予防接種の種類も増え、月 3 回の集団接種では日時が限られているため接種間隔等合わせにくい時もあります。保護者の方の利便性を考えると、個別接種も 1 つの方策と考えています。いずれ条件が整えば個別接種に移行できればと考えておりますが、どのような条件になれば個別接種が可能でしょうか。また、実施にあたっては、接種手技の講習等が必要かと思われませんが、市としての準備等必要なことがあればご意見をお願いします。

林会長

ありがとうございます。

事務局

補足説明ですが、この議題につきましては、去年の予防接種協議会におきましても議題とし協議していただきました。

去年の協議会にて、B C G を個別接種にすることを考える必要があり、継続課題として検討していくこととしていただきましたので、今回の協議会にも議題といたしました。

私共としましては、今後も個別接種を実施に向けて検討を進めたいと考えています。今回の協議会にて、予防接種の実施に向けて検討を進めるべきが、もし実施に向けて検討を進めるならば、何が課題となるかご検討くださいますようお願いいたします。

林会長

ありがとうございました。事務局から提議がありました。これについて話し合いたいと思います。まず、個別接種で進めるという方向性をもって議論していくのか、あるいは、個別・集団の併用でいくのか、まずその辺りから検討したほうがいいでしょうか。お一人ずつご意見をいただきたいと思います。新原委員いかがでしょうか。

新原委員

資料を見ますと、集団接種もありますが個別接種の自治体が増えてきていると思います。個人的には、前回も申し上げたかもしれませんが、個別接種の流れになってきていますので、保護者の利便性を考えると、保護者が都合の良い時に子供を連れて行ける個別接種の方が良いのではないかと思います。そのためには、BCGを今までずっと集団で接種してきましたので、接種方法についての手技、その後の経過を見る方法などに関して研修会を開いて、従事する先生や看護師の手技の均一化が図れる方策を考えると良いと思います。

林会長

田中委員いかがでしょうか。

田中委員

利便性を考えると個別接種の方が、良いと思います。新原委員がおっしゃったように従事する先生や看護師に手技的なことに差がでてくると思いますので、その辺りが心配になると思います。

林会長

個別接種の方向の流れで考えるということですね。廣畑委員お願いします。

廣畑委員

健康福祉部からはお願いをすることばかりですが、個別接種を実施していただけるのでしたらありがたいです。保護者の方や子供さんにとっても、利便性があれば実施していただくとありがたいと考えています。

林会長

木村委員いかがでしょうか。

木村委員

私はまだ、小牧市の状況をよく把握していませんが、個別接種になった場合、医療機関側の手技の問題が出てくると思います。BCG接種というのは、日本の場合、法律でしっかり決まっていますので、管針の痕が1個しかないとか、管針間がかなり離れているなど、それらは医療者側の問題です。もう一つ小牧市には外国の方が多く感じます。外国の方は大腿に接種してくれとか、足の裏に接種してくれなどの要求があり、それをどうやって、日本の法律に基づいて接種をさせるかが、問題になってくると思います。小牧市の全体を把握していないので、そのくらいしかコメントできません。

林会長

春日井市は、集団接種から個別接種にという議論はされていますでしょうか。

木村委員

特に、されていません。

林会長

4人の委員の意見としては、個別接種という方向で考えていこう。実施者としては、個別接種に移行できるとありがたいであります。方向性を考えていく中で、手技の問題、あるいはそれに伴う諸事情を含めて、進めていく方向で議論していくということによろしいでしょうか。

私の意見としては、迷っているところで、一つは集団接種ですと接種率が高いですね。98.7%とほぼ100%に近いですね。個別接種にすると下がる可能性があります。個別接種に関して利便性の問題を考えると、確かにいつでも接種ができるというのは受けられる側としては良いことだと思いますが、実際やる側としては、きちんとやらなければいけないという、精度の問題があります。打ち方も含め、接種後のフォロー、院内でしばらく残って接種部位が乾くのを確認してから帰ってもらわなければいけない。他の注射より管

針での接種の方がかなり時間がかかります。一番心配なのは、手技もそうですが、スタッフがどの程度きちんと見ていただけるかどうかというところが、大事ではないかと思います。その辺を含めて個別接種か集団接種かどちらがいいのか、はっきりとは頭の中で決めかねている状態のところではあります。もう少し、実施する医療機関側は医療機関側で議論を進めることとし、あくまでも手技の話、接種間隔の問題など、話し合うことは可能ですが、もう一つは今、小牧市が大勢の看護師が付いてしっかりやっていて、接種後もこの広い会場で待っていただいて、フォローしているのを見ると、確実性があると思います。今、ご意見が出ています個別接種の方向で議論いただきましたので、次は実際に個別接種に移行するという事になった場合の、長所、短所についてご意見があればお願いします。新原委員いかがですか。

新原委員

進めていくにあたり、移行期間無しで個別接種に完全に移行するのか、自治体によっては、資料にもありますように、集団接種と個別接種の併用実施の自治体があり、保護者の方が集団接種か個別接種を選択できる自治体もあると思います。段階的に個別接種に移行するという事で、集団接種と個別接種を併用して進め、混乱がなければ、個別接種に移行していくという方法と、いきなり集団接種から個別接種に完全に移行する方法と二つあると思います。個人的には、一旦は集団接種と個別接種の併用でも良いのかと思います。実施医療機関の数にもよると思いますが、資料によりますと岩倉市では出生数 444 人に対して 5 医療機関、一宮市は出生数 2,756 人に対して 70 医療機関で、1 施設あたりの人数ということを見ると、自治体によりかなり差があると思います。その辺りに関して実際に小牧市内の医療機関が対応できるかということも調査する必要があると思いますし、保護者の方からの要望ですね、個別接種の方が希望が強いとか、あくまでも市民サービスですので市民の要望に従って進めていけるといいかなと思います。

林会長

いきなりではなく、併用な形をとりつつ、ということですね。実際、全医療機関が実施するという訳ではなく、実施できる医療機関の仕上げ方式にして、きちんとした接種体制が取れるかどうか、スタッフも含めてというところですね。もう一つは保護者の希望を聞くということですね、アンケート調査などできるんでしょうか。その辺りの資料や要望などまとめたものは、持っていないでしょうか。

事務局

特に保護者の方から要望をいただいているという記録は、ございません。アンケートを取ってあるのかというお話もいただきましたが、やるということであれば、健診のタイミングでお伺いすることになるかと思いますが、アンケートは可能かと思います。

林会長

それも含めると時間はかかるかと思いますが、市の意向と市民の意向がどうなっているか、具体的な数字があるといいかと思います。田中委員いかがでしょうか。

田中委員

重なるかと思いますが、他の予防接種と性質がかなり違いますし、接種後も乾かしたりしっかり見て、その上で帰ってもらう必要がありますので、そうなりといきなり「できますよ」という医療機関は少ないと思います。むしろ、それだけのことができないので、「やらないよ」というところが増えると、特定の医療機関に集中する可能性があります。最後に市民病院の状況の報告もしますが、今の状況で市民病院にBCG接種希望者が多くきてしまうと対応ができないかなと考えます。それを考えるとなかなか簡単には、個別接種の実施ができないかなという感想です。例えば、手を挙げる先生方が少ないと、市民病院がやってほしいという話が必ず出てくると思います。今小児科医が少ない現状で、シナジスの接種もあり、そこにBCGが加わると大変なことになるなと思います。

林会長

現在 13 医療機関とありますが、広域に対して手を挙げているということですか。

事務局

はいそうです。他市の人が小牧市で接種する場合に手を挙げている医療機関が 13 ということになります。

林会長

小児科ですか。

事務局

小児科は 1 件です。他は内科です。

林会長

小児科 1 件ですか。他 12 件が内科ですか。小牧市内の内科はどれくらいありますか。82 医療機関中何件ありますか。30 くらいですか。

事務局

それくらいだと思います。

林会長

小児科の先生は手を挙げないかもしれないですね。理想的には今の小児科の 8 医療機関が手を挙げてくれるといいと思います。

木村委員

私の立場からはどちらかということとは言えませんが、自治体に属する医師会のご都合もあるかと思いますが、例えば個別接種になった時に小児科 1 件で後、内科ということで、対応できるのかなと思います。確実な時期に確実な方法で B C G を接種できるのか、通常

1歳未満のお子さんですので、通常内科であまり1歳未満のお子さんは診ないんですけど、それがどういう状況になるのか想像が付きません。小児科1件だけではしんどいのではないのでしょうか。

林会長

これは、広域だけで手を挙げている人ですが、いつも接種をやりますか、やりませんかというもので、○を付ければ広域になるんですか。

事務局

県の方からきている調査に○を付けて、毎年提出していただいているものです。

林会長

小牧市のものとは、別ですか。

事務局

市から配っているものとは、別になります。

林会長

広域ではなく、実際、市の方で実施している数は入っていますか。市が出している方でBCGを実施すると○を付けた医療機関の数は。

事務局

すいません、把握していません。申し訳ありません。

林会長

あくまでも、広域の数ですか。

事務局

はい、あくまでも広域で実施する医療機関が13です。小牧市で

は長期療養のお子さんを対象に実施していただくために○を付けていただいておりますが、実際は接種する方がいらっしゃらなくて、医療機関の数としては、すみません把握してはいません。

林会長

わかりました。広域の場合は、集団接種の市でも○が付いていれば、小牧市での個別接種が可能ですか。

事務局

他市からの連絡票を持ってくれば、手を挙げている医療機関であれば接種可能です。

林会長

春日井市では集団接種だが、小牧市の医療機関で接種を希望すれば接種できるってことですね。

事務局

はいそうです。

林会長

ありがとうございました。

実際、手技の話ですが、集団接種の時も我々小児科医は診察の方にまわっていて接種をすることがありません。なるべく、耳鼻科や眼科の先生方には、診察はなかなか大変だろうということで、接種のほうにまわっていただいています。最近は、こういう傾向であります。数年前までは同じように輪番制で接種も同じように実施していた時期もありました。今は、小児科の先生方には診察をしっかりとお願いしたいということで、接種を他の先生方にお願いしています。接種する手技は問題なさそうに見えますが、先ほどお話があったように接種後の管針の痕が足りないというケースも多々見かけられますし、接種する間隔ですとか、接種する位置ですとか、そういうところを徹底できれば良いと思います。集団接種をしながら、

実施する側として議論して意向調査をしたうえで、手技と接種後の乾燥等見届けることなどの講習的なことをすれば、個別接種の方向で考えてもいいかと思います。来年度できるか再来年度できるか、わかりませんが、じっくり検討した上で実施していただいたほうが、私としてはこの1,112人の子供たちの安全を確保するためには、早急に適切な接種が出来ること確認した上で開始した方がいいと思います。何か他にご意見ありますでしょうか。

たしかに尾張地区は個別接種を実施しているところは少ないです。後、集団接種で困った事例とかありますか。管針の痕が少ないとかなど、集計していますか。

事務局

特には、聞いていないです。市民の方も接種後1か月ぐらいしたところで心配して来所されることはありますが、針痕の数もついている方がほとんどで、逆につきすぎて、反応が強くて心配で来所される方も中にはみえます。その他には聞いていないです。

林会長

ありがとうございます。その他に意見というか、なければ今のところまとめてよろしいでしょうか。どうでしょうか。

事務局

実施できる医療機関の問題であるとか、保護者の方の要望もあろうかと思います。会長がおっしゃられましたように、じっくりと課題を整理していく中で、検討して、協議会の中で議題としてご協議いただけたらと思います。少し時間はかかるかと思いますが、検討といえますか、課題を整理していきたいと考えております。

林会長

今まで出ました意見をまとめていただいた上で、今回は来年になりますか。1年に1回ですから。

事務局

来年また、整理をして進捗状況等含めて議題に出せるように考えていきます。

林会長

先ほど言った予防接種事故等、問題があれば、資料として出してください。事故以外で、いろいろな問い合わせも含めてまとめてください。

続きまして、議題4に入らせていただきます。

「ロタウイルスワクチンの助成について」事務局より説明をお願いします。

事務局

議題4 ロタウイルスワクチンの費用助成についてです。林会長から、協議提案事項として出されましたが、ロタウイルスは乳幼児のほとんどが感染し、胃腸炎を発生させ、重症化した場合は入院に至ることがあります。予防接種法に基づかない任意接種で接種義務はありませんが、重症化を防ぐロタウイルスワクチンを接種する保護者の経済的負担を軽減できたらと考えます。他市の状況としましては、愛知県内で19市町村が助成しています。助成金額は1人当たり9,000円もしくは6,000円の市が多いです。近隣の状況としましては、北名古屋市が1回あたり1価のワクチンが4,500円5価のワクチンが3,000円の助成、尾張旭市と瀬戸市は1回あたり1価のワクチンが3,000円5価のワクチンが2,000円の助成です。

市としては接種費用の助成について、他市町村の実施内容や事業経費などについて研究をおこなっているところです。事業を実施した場合の課題等、検討が必要なことがありましたらご意見をお願いします。

林会長

ありがとうございます。ロタウイルスワクチンについては、小児科学会でも推奨しているワクチンで、任意という形ですが実施して

います。状況としましては、自分の医院でもそうですが、ここ数年、重症化する例は大変減ってきています。中には、7歳8歳で発生することもありましたが、ワクチンを接種しているから軽症化しているという印象です。委員の方ご意見お願いします。新原委員いかがですか。

新原委員

任意接種でロタウイルスワクチンの導入が始まってから、ロタウイルス感染症で受診する患者さんは激減しています。ワクチンの効果は確実にあります。今のところ重篤な副反応を経験はしていません。とても高価なワクチンであり、経済的な面で接種ができない方もいますので、市の方で助成があれば大変ありがたいと考えています。

林会長

ありがとうございます。だいたいロタリックス（1価）の方が、1本12,000円くらい、ロタテック（5価）の方が8,000円くらい、高価なものです。2回接種して24,000円、3回接種して24,000円くらいになるかと思えます。助成があると大変ありがたいと思えます。田中委員いかがですか。

田中委員

入院という面からみますと、ここ1～2年は胃腸炎での入院になる方は、ほとんどノロウイルスばかりで、ロタウイルスが激減していると思えます。ノロウイルスとロタウイルスを比べますとやはり、ロタウイルスの方が合併症が多く、ロタウイルスが予防できるということは、非常に意味があることだと感じています。ワクチンと関連した腸重積ですが、断定はできませんが、ここ数年で2例ほどワクチン接種後に腸重積を起こしているという方を経験しています。特別にそれが多いかといわれますと、そこまでの印象はありません。その2例は製薬会社の方に報告してあります。

林会長

2回目の接種ですか。

田中委員

多分、1回目だったと思います。比較的小さいお子さんでしたから。1例は西部医療センターの小児外科に紹介しました。小さい頃に腸重積を発症した時に腸の戻りが悪いかな、治ったかどうかの判定が難しかったりするので、もしワクチンがらみで増えるようなことがあると、やっかいだなと正直思います。確実に増えているという実感は今のところないです。

林会長

生後3か月のところで自然発生とワクチン接種後の子の発生とデータを比較すると、ワクチン接種の子の方が発生が少なかったです。

田中委員

相殺されるとむしろ利益の方が大きいかなと思います。ただ生後3か月くらいの子で腸重積疑いで来院すると、診断は難しいです。

林会長

そのあたり、副反応等も踏まえて、助成をされるかされないかは決めていただけるといいと思います。廣畑委員いかがでしょうか。

廣畑委員

今年度、保健センターと打合せをしまして、県内で製薬会社の調べで7割以上の方が接種をしているということでした。助成があれば接種する人も増えると思いながら、私の立場からすると、この場で皆さんに考え方等をお聞きして、役所へ持ち帰り、役所の中で実施計画というのがありますので、計画に乗せながら実施していく必要があります。今回は、委員の皆さんの意見をお聞きしてと思っています。

林会長

木村委員いかがですか。

木村委員

先生方がおっしゃるようにワクチンの効果はあるという印象です。先ほど2例とおっしゃっていましたが、3か月で腸重積というのは大変だろうなと思います。もう1例のお子さんは開腹になったんですか。

田中委員

開腹にはなっていないです。ただ、治ったかどうかの判断が相当難しく、注腸造影の時に思い切った圧が加えられなくて、慎重にやらざるを得ないです。

木村委員

現場の先生方は腸重積なんか起こると大変なんだろうなという印象です。

林会長

ありがとうございます。たしかに腸重積の問題はあります。助成された場合は、おたふくかぜワクチンと同じ救済措置になりますか。

事務局

市が助成するとなれば、おたふくかぜワクチンと同じ救済措置になります。

林会長

ありがとうございます。救済措置があれば、皆さん安心して実施できるのではないかと思います。

高価なワクチンなので、実施に向けて検討していただき、助成額に関しては、半額助成なのか3分の1助成なのか、できれば半額助成をしていただけるとありがたいのではないのでしょうか。

次回議題として、不活化ポリオについての助成についても入れていただけますか。

事務局

先ほど廣畑委員がお話させていただきましたように、今日いただいた意見を持ち帰りまして、市の実施計画等検討して、結果等につきましては、次回の協議会で報告をさせていただきます。

林会長

ありがとうございます。よろしく検討をお願いします。

それでは、続きまして議題5に入らせていただきます。

「市民病院の個別予防接種の縮小について」本日、市民病院田中委員からご意見をいただいておりますので、田中委員説明をお願いします。

田中委員

2つの問題がありまして、1つは、スタッフが不足している状況です。

常勤が6名いますが、9月末より1名が産休育休に入り5名の体制になります。既に春に2名の異動があり、1名補充になっていますが、その時点でマイナス1で、さらに産休育休でマイナス1で、計マイナス2名になります。当直は、今名市大の先生に、月・火と週末の1日か2日もお願いしている為、月の3分の1くらいは、外の先生にお願いをしている状況です。当直が終わった後は、半日の業務で帰っていただくようにしています。市民病院の医師が当直の午後からスタッフが1名減るという状況です。そのようにして、健康管理をしている状況です。

予防接種は毎週木曜日の午後に実施しています。一番の問題はシナジスの接種があることです。未熟児とか、心疾患、ダウン症の方に半年間接種しています。去年までは9月から3月か4月まで、毎月1回の接種をしていました。RSウイルスの流行が去年が8月から、今年は7月から始まりまして、呼吸不全で入院する赤ちゃんが

ものすごく多くて、7月や8月に病棟の10何人入院している子のほとんどがRSウイルスの乳幼児という週もありました。呼吸不全を起こし人工呼吸管理を必要なお子さんもいましたし、相当この夏は暑い夏でしたが、RSウイルス一色だったという現状です。愛知県周産期の協議会などでも話題になって、シナジスの接種を去年よりも早め、今年は8月から接種を開始しました。その接種を待たずに7月の下旬に罹患して呼吸不全を起こしたケースもあります。来年以降さらに接種時期が早まる可能性もあるかなと思います。シナジスは1か月毎に接種をしなければいけなくて、半年間接種し続けます。1回に20人ぐらい接種していますが、これから生まれてくる赤ちゃんもいますので、増えることはあっても減ることはありません。他院からの依頼も受けていまして、乳児健診は第一日赤や第二日赤病院で実施するが、小牧市の方なので、シナジスだけお願いしますという依頼が非常に多く、毎月毎月接種していかなければならないので、水曜日にかかなり負担がかかっています。人数的にもいっぱいな状態です。これ以上は増やすことができず、そうすると、はみ出した先は木曜日の予防接種の外来になる可能性があります。現状としては、木曜日の予防接種は人数的にはさほど多くはありません。多くて10人ぐらいで、2人の接種医で担当しています。シナジスが入ってくると同じようにいっぱいになってしまっていますが、RSウイルスの流行期とインフルエンザの流行期が重なりますので、そうするとインフルエンザでかなりスタッフが必要となります。そういったことで、できれば市民病院では一般の予防接種を制限させていただきたいと考えています。特にこれからインフルエンザが増えてきます。よく卵アレルギーがあるので、インフルエンザが接種できませんと言われたとのことで、市民病院に依頼がありますが、アレルギー学会から鶏卵アレルギーがあっても麻しんとかムンプスワクチンと同程度のアレルギーのため、普通に接種できると勧告がでているのですが、未だに卵アレルギーがあるので、うちでは接種できませんと言われ、紹介状を持参する人がいますし、紹介状はないけれども市民病院で接種してもらおうようにと言われたというのがあります。地域の先生方に紹介状の回答に鶏卵アレルギーでも接種

できますと記載しています。完全に予防接種を実施しないことは難しいとは思いますが。例えば外国の方で通訳が必要な方がいますので、そういう方は市民病院で接種をやらざるを得ないかなと思います。アレルギーで接種できないと言われた方は、本来接種できるので、地域の開業医さんに接種をお願いしたいと思います。今、予約を電話で受けていますが、その段階で原則としてはお断りをするという形になるのですが、その辺りをご了解いただけるかどうか、これはかなり近々の問題ですので、1年後に検討すればいい問題ではないので、このインフルエンザのシーズンをどうするかという話になりますので、ご意見をいただきたいと思います。

林会長

ありがとうございます。かなりスタッフが少ないということですね。

田中委員

医師5人で実施しています。例えば当直明けで1人帰ると4人になり、帝王切開手術が入ると1人そちらを担当し、救急外来で1人担当すると2人になります。予防接種の実施には、最低2人はいます。シナジスを接種する時は3人体制で実施しています。午後には3人確保するというのは、すごく難しいことです。午後からの入院依頼がすごく多いからです。開業の先生方からの肺炎の入院依頼も12時を過ぎてからが多いです。市民病院では午後からのすごく業務が多くて、しかも予想がつかない業務が入ってくるため、なかなか苦勞しているところです。

林会長

今後は、市民病院の予防接種外来は、特殊な外来という方向性を訴えていただき実施していただくのがいいですね。

田中委員

限界があるかと思います。それこそシナジスを先生方に接種して

いただけるといいのですが、そういうわけにはいかないと思います。

林会長

新原委員の医院ではシナジスは接種していますか。

新原委員

実施していません。

田中委員

保険請求で審査が通らなかった時の損害が大きくなります。非常に高価な薬ですから。去年、患者さんのことを考えてこの子は感染すると危ないからと早めに接種を8月に開始した医療機関が保険の適応ではなくなり、流行期からということになってしまいました。今年に関しては愛知県全体で8月からの流行で、認めていただけるのではないかとという予測で接種開始されたところでは。

林会長

たしかにここ数年RSウイルスの流行がどんどん早まっていますね。

田中委員

もともと南の方ほど、早く流行するうわさがありましたが、鹿児島とか沖縄が夏に流行しているよという話がありましたが、今は現実問題RSウイルスが7月、5~6月頃から出てきていて、7月に爆発的に増えてという状態になってきて、今やっと一息ついてきたところでは。

林会長

卵アレルギーに関しては、数年前市民病院にお世話になったケースもありましたが、実際卵アレルギーがあってもショックを起こしたことがあるくらいのケース以外は、ワクチンのリスクは頻度的には変わらないので、アレルギー学会が接種しましょう、接種しても

いいでしょうとなっていて、それを聞いてからは接種しています。

縮小ということですが、どういう風にしていけばいいでしょうか。市が周知するということになりますか。周知にもならないですか。広報にも小牧市民がどのワクチンが接種できますというのは載っていますか。ワクチン外来の時間帯とか。

田中委員

案内は載っていないです。

新原委員

1つ質問していいですか。今、一般の予防接種ですが、ヒブや肺炎球菌あるいは、任意接種のインフルエンザワクチン等は、紹介がなくても患者さんが自分で予約すれば接種できるということですか。

田中委員

そうです。原則、お断りをするということになります。

新原委員

例えば方向性としては、市民病院は紹介患者のみと自院で診ている未熟児等の患者さんだけに限定するとか、患者さんが自分で予約をできる形を無しにする等があるかと思いますが、どのような形を考えておられますか。

田中委員

予防接種に関しては、事務が電話もしくは窓口で予約を取っています。今は全部受けていますが、それを原則受けられませんということになります。どうしてもといわれる方は一度相談をみたいな話になります。外国の方で日本語が話せない方は仕方がないかと思えます。市民病院で診ている喘息とかのお子さんでも地域の開業医で接種してもらえないかと勧めたりという形になります。

林会長

我々小児科医は、極力我々のできることは我々でやり、市民病院は慢性疾患であったり未熟児あがりのお子さんですとかを積極的に実施していただきたいと思います。

田中委員

リスクがあるお子さんたちの受け皿が無くなると、名鉄病院予防接種センターまでいかないといけなくなってしまいますので。今まではアレルギーがあると相当拡げて予約を受けていましたが、データが出て安全性が担保されてきましたので、卵アレルギーを持つ子に関しての接種を縮小していきたいと思います。

林会長

一般の開業医の先生ですと卵アレルギーだと心配だから、接種したいというなら市民病院へ行きなさいということになってしまいますよね。

田中委員

内科の先生で自信がなくて接種ができないということなら、そういった方は一旦相談のために受診していただいて、アレルギーを良く知ってみえる小児科の先生のところへ逆紹介みたいな形をお願いするというのは、いかがでしょうか。

林会長

個人的には構わないです。

新原委員

個人的には構わないです。

林会長

意見はいかがでしょうか。この議題に関しては市民病院につきましては、縮小の方向で実施していただいても構わないでしょうか。

市内の医療機関としてはなるべく我々のできることを協力する。よろしいでしょうか。

廣畑委員

多分、医師会全体の話が出てくると思います。市民病院から医師会あてにある程度の実施の方法など情報を出されたほうがいいのかと思います。

林会長

院長を通じて医師会へお願いという形で出されるといいかと思えます。

この議題はこれでよろしいでしょうか。事務局の方もよろしいでしょうか。

事務局

今現在、市民の方に予診票の通知をする際に医療機関一覧を出しています。そこに市民病院も載っている状況です。それを取りやめるとするのは、難しいのですがどのようにさせていただければよろしいでしょうか。

廣畑委員

市民病院でもリスクのある方は接種するので、全く載せないわけにはいけない気もします。

田中委員

接種をしないとまた問題ですよ。文面にはならないですが、受付があった段階で、市民病院では、基礎疾患がある方、接種が危険な方に限らせていただいています、と口答で説明してご理解いただかないかなと思います。接種しないわけではないので。

林会長

文面にはしなくてということですか。

田中委員

文面というか、広報の接種可能な医療機関というところで、たしかに一覧を見ると誰でも接種できると思いますし、インフルエンザもワクチン液が不足すると市民病院ならワクチンがあるだろうと問合せが必ずきます。

事務局

1つ、今すぐにはできるわけではないですが、1つの医療機関が市の予防接種としては協力していただいています。訪問を主でおこなっている医療機関ですので、そこにかかっている人のみの接種にしたいため、一覧から外してほしいとの希望があり、外しています。そういう方法もありますので、予約は市民病院でおこなっていただきますが、来年度そういう希望がありましたら一覧から外すことはできます。

田中委員

わかりました。

林会長

その他にご意見ないでしょうか。他に協議事項はないですか。次回は不活化ポリオについてお願いします。特にないようでしたら事務局お願いします。

事務局

ありがとうございました。長時間にわたりご協力いただきありがとうございます。それでは、以上をもちまして小牧市予防接種協議会を終了いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。小牧市では、無施錠の自転車盗難や空き巣が発生しておりますので、必ず鍵をかけていただきますようお願いいたします。また、交通事故が多発しております。お帰りの際は皆様十分にお気をつけいただきますようお願いいたします。

